

こたえ しっぺい太郎^{たろう}しっぺい太郎^{たろう}

(日本の昔話)

昔、ある村では、毎年秋の祭りの夜に、村のむすめを一人、山の神様にささげなければなりませんでした。

旅のおぼうさんが、そのわけをさぐろうと、山のお堂^{どう}にかくれて夜をまちました。すると、化け物たちがあらわれ、おどりながら歌いました。「しっぺい太郎^{たろう}に知らせるな。しっぺい太郎^{たろう}はこわいぞ。」

おぼうさんは、しっぺい太郎^{たろう}をさがして旅をつづけ、やっと遠い村で、しっぺい太郎^{たろう}という強い犬を見つけました。

次の祭りの夜、おぼうさんは、むすめのかわりにしっぺい太郎^{たろう}を箱に入れて、山へ運びました。化け物たちが箱のふたを開けたとたん、しっぺい太郎^{たろう}が飛び出して、化け物たちにかみつきました。

化け物の正体は、年を取った大きなさるでした。それから、村のむすめがささげられることはなくなったということです。村の人たちは、しっぺい太郎^{たろう}に心から感謝^{かんしゃ}しました。

1 化け物たちは、だれに知らせるなと歌っていましたか。

しっぺいたろう

2 しっぺい太郎^{たろう}とは、何でしたか。

ア 強い犬

イ おぼうさん

ウ 村のわかもの

3 化け物たちが「しっぺい太郎^{たろう}に知らせるな」と歌ったのは、どうしてだと思いますか。

しっぺい太郎^{たろう}が、自分たちにとってこわい相手だったから。

4 化け物の正体は、何でしたか。

年を取った大きな

さる

おうちの方へ

- 化け物の歌が、なぞをとくヒントになっていることに気づかせましょう。